



# 虹

東村立 高江小学校  
学校便り【虹】  
2021年7月19日  
発行責任者 校長 宮城達也

※ 7月8日付：琉球新報でも紹介されました！

王求 奈斤 幸良

第3種郵便物認可

窯から作品を取り出した高江小中学校の児童生徒と職員ら＝2014年、東村立高江小中学校



窯を修復する森貴希さん  
11月14日、東村高江

【東】東村高江小学校のグラウンド横に現在使われていない登り窯がある。陶芸家の森貴希さん(40)や地域住民らが、窯を復活させる取り組みを始めている。やちむんを活用した地域活性化にも期待の聲が上がる。県内の小学校に登り窯があるのは同校のみとみられるが、2017年に廃用されていない。

## 東村・高江小 陶芸家と地域協力

# 思い出の登り窯 復活へ

組んだ。自分で土や木をもらいに行ったりしたと振り返った。その後、同校に赴任した知花博康さん(55)らが修復や改良を重ねていった。陶芸教室も開かれるようになる。

さん(31)は「大人たちが交代でまきをくべて一晩中、火を見守ってる姿を鮮明に覚えている」と懐かしそうに語った。当時を知る同区の喜友名サヨさんは「いろいろな作品が生まれた。中には『名人』と呼ばれる人もいた」と立時を振り返り笑った。

近年、少子化が進み陶芸教室の開催も減少。2017年に高江中学校が閉校してからは使用されなくなっていた。登り窯を復活させようと、区民で保護者の荘司剛さん(42)と宮城達也校長らが陶芸家を探したところ、森さん(40)にたどり着いた。読谷村のやちむん工房で修行していた森さんは、ちょうど独立後の活動拠点を探していた。今年4月、森さんは家族4人と移住した。

森さんは窯の修復や土の取れる場所を探するなど復活に向け奔走している。村教育委員会も修復費用を支援。富山全神村長は「支援していきたい。地域活性化の拠点になってほしい」と登り窯再生に期待を寄せた。

森さんは「学校が工房ができることは思わなかった。子どもたちがやちむんに触れる機会をつくりたい。地域の人々が交流できる場になればうれしい」と意気込んでいる。今年8月までの修復を目指している。9月には子どもたちを対象にした陶芸教室を開催する予定。

## やちむん工房交流の場に

高江小中学校(当時)に向け奔走。比嘉さんは本格的な登り窯が造られたのは1980年ごろ。同校たちが土に親しむ教育が、当時美術教師をしていた比嘉敏夫さん(84)らが造成。授業の合間を縫って取り

# いよいよ長～い夏休みに突入だ!



夏本番! 毎日暑い日が続いています。さて学校は20日(火)に一学期の終業式を行い36日間の夏休みに入ります。夏休みは子どもたちが普段の学校生活(教室)ではできない、いろいろな自然体験、社会体験、文化・スポーツ体験などを行う絶好の機会になります。その一方で、学校や家庭を離れ外出する機会が多くなり、その解放感から逸脱行動も発生しやすくなり、事故事件に巻き込まれる危険性も増すことが懸念されます。学校でも、夏休みの意義や望ましい過ごし方について、事前の指導を徹底して行いますが、各家庭においても下記のこと等について、お子さんと話し合い、約束していただきますようお願いいたします。

- 1 子どもたちの外出については、必ず保護者の同意を得るとともに、目的、同行者、帰宅時間を確認し、規則正しい生活ができるよう約束する。
- 2 子どもたちの基本的な生活習慣の確立を図るとともに、特に事件・事故に結びつきやすい外泊や夜間外出の禁止等、日頃から安全な生活について話し合い、指導を徹底する。
- 3 子どもが犯罪に巻き込まれないよう、家庭においても携帯電話やインターネットの使用ルールの再確認やフィルタリングの設定など、具体的な対策を行う。
- 4 子どもたちだけで泳ぎに行かないこと! 地域の危険箇所には立ち入らないこと! 交通ルール(自転車の乗り方等)を守ること! 等を約束し、子どもたちが自分で自分の身を守る「危険回避能力」を身につけられるよう、指導を徹底する。

また図書館便りでお知らせした通り、夏休みにも開館日を設けてあります。今年度の読書感想文・感想画の図書も指定され、学校図書館にも収蔵されています。夏休みは多くの図書に触れるよいチャンスでもあります。開館日を利用して計画的に読書ができるよう、子どもたちへの声かけもよろしく願います。

## 【楽しかった水泳教室】



## 【稲刈り→脱穀】



## 【キャリア講話】7/14

高江出身の鳥越(旧姓：照屋)さんにお話を伺いました。先生といかめいさん、幼いころの体験が、子ども向けの読み物、自然豊かな佐賀の土地を、夢を続けるきっかけに、元気に遊んでください!



